



明日石城忠魂祭

新英靈に思ひ新たな参拜

石城郡市の戦死病死者を弔ふ忠魂祭は明日午前十時から平市松ヶ岡公園の忠魂碑前に執行されるが事變下の同祭には新英靈も少なからず與亞の礎石となつた忠魂に向つての思ひ新たなる参拜には銃後をして聖業途途の進進に覺悟する堅忍持久を再認識せしめらるべく時恰かも大和心に歌はるゝ櫻花も咲き初めて居り武人の靈を弔ふものに應はしく幸ひにして好晴なれば花季を魁ける同祭は賑はしき人出を見ることであらう

興亞の礎

石城出身勇士

古市卯平伍長、石城郡草野村の神谷出身、立花部隊に屬し中支〇〇の殘敵掃蕩に活躍中の四月四日遂に名譽の戦死をなせる旨、八日原隊から發表、同君は父長火右工門(六)氏、母とめさん(三)の二人息子で應召前は兩親と妹一人をもつて農業を営んでゐた、姉さだよさん(三〇)の夫實氏は目下平澤に勤めてゐる

好問の強盜は賣藥商

平署の苦心の捜査が酬えられ

菊地、香内刑事の追跡に

去る五日朝未明石城郡好問村北好問字權現堂一四無職藤藤とさん(五〇)方に忍び在金を出せと強盗文句をならべたが拒絶されて同人を傷け一物を得ず逃走した強盜傷人事件に對する平署の活動は眞報の如く苦心の捜査が酬えられて犯人は昨秋同村日曹小田炭鑛に五十日程働いて無断行方不明となつた栃木縣總務部警連川町字本町四四三三生れ住所不定強盜五、放火一、徵兵忌避一、強盜傷人一、計八犯の前科者で前記強盜傷人の爲

市街地信用組合總會

今年平庶民金庫の當番

縣下市街地信用組合即ち庶民金庫として一般預金を取扱ふ福島一、若松二、郡山一、平一、須賀川一、白河一の七組合大會は来る十三日午後一時から本年は平庶民金庫の當番で同庫樓上に於て開催される出席は役員のみ約二十名、協議は主として事務の研究及び時局下にあり組合のなすべき事業につき懇談なほ十ヶ年の後解散する

米増産の督勵委員

石城で百九十五名

平市と植田町でその委員会

米増産の督勵委員職託は既報の如く石城郡では来る十二、三の兩日平市と植田町の兩所での縣の指令交付と同時に同委員の協議會を開かれることになつた、石城郡への割當は市部七七八〇石の基準に増産二四六石郡部は基準一八六一〇石に五八八八石の増産で兩計廿萬三千廿三石の收穫を計畫され本縣下では基準百九十九萬八千廿九石に六萬三千

支那單語

既早く寝ますかと云ふをワンシアンシユイチアオデツアオマ、早く寝ますと云ふなら是早睡覺でシーツアオシユイチアオ、明後日歸つて来升は後天回來でホウチイエンホーライ

高木一郎 古川慶福 渡邊國之助 ▲山田 下山田金之助 澤田好幸 蛭田秀太 大河内寅治 木内勝馬 秋山乙治 ▲錦、古川一、三寄光一 助川武平 星徳次郎 赤津宗吉 齊藤勇 ▲勿來平山昇 中野七之助 大平平次右工門 國部藤三郎 大平竹男 猪狩新一 赤津松次郎 ▲上遠野 吉田一雄 延々彦重 蛭田清之助 上遠野太一 鈴木莊藏 對馬機市郎 ▲入遠野 折笠六郎 鈴木理喜雄 上遠野一美 永山文雄 佐藤庄太 小沼源三 ▲川部 田子勝一 芳賀藤太郎 小野重一 村田辰雄 清水與市 國部榮次郎 ▲田人組合 小野兵衛 緑川吉三郎 鈴木寛三郎 逸見徳藏 蛭田貞藏 蛭田信平 緑川源三 内山秀次 蛭田千代松 小澤正善 ▲飯野 山崎明勝 阿部利久 白土正直 小泉得衛 江尻久平 鹽濱瑛 ▲夏井 酒井一郎 根本一男 矢吹朝光 鈴木廣之 青木敏明 ▲高久 矢吹興六 鈴木富太郎 志賀金之丞 鈴木米作 鈴木敬三 ▲豊間 四家富雄 鈴木新松 鈴木徳治 ▲江名 秋山徹 及川富士太郎 片寄賀之助 ▲鹿島 長瀬博文 高萩一良 新妻一行 三島五郎 門馬保彌 ▲小名濱 菅原彌作 鈴木定太郎 ▲玉川 齊藤正一 永山義雄 永井久太郎 柳井五郎 渡邊昇 丹野政晴 西丸正若松勘一 ▲警崎 酒井賢吾 清水角治 鈴木長吾 野木良三 小泉博衛 小泉萬龜 尾 高木辰治 鈴木孝平 ▲湯本 小久富司 志尾崎徳衛 ▲内郷 坂本政一 野田辰次郎 根本保吉 山崎正仲繪磨 ▲好問 齊藤勲 志賀滿 猪狩愛之助 鈴木茂孝 鈴木角太郎 白土賢司 ▲赤井 坂本幸一郎 宮内喜候 鈴木定七 田久信夫 根本軍平 鈴木文夫 ▲永戸組合 津澤松恵 平山榮 ▲藥谷喜知平 鈴木忠義 大和田捨男 遠藤好井 小沼三男哉 高萩安吉 ▲澤渡組合 渡邊貞美 草野鐵一 平山善吉 佐川美文 草野敏美 大竹要 永久保林太郎 藁谷滿房 ▲神谷 志賀兼太郎 中野高壽 鈴木義久 須藤新松 木村力 鈴木良作 ▲草野 渡邊伊佐次郎 齊藤忠一 新妻藤治右工門 新妻榮吉 古市喜一 鈴木富一 江尻久壽 渡邊神澤一三 田子英夫 齋藤

場員に聖地参拜

石城郡錦村の吳羽人絹工場

は皇紀を記念し去る十日左記優良従業員廿名を表彰し伊勢はせたが向作同工場では日本精神揚揚のため来る五、六兩月の毎月曜を以て全従業員に皇居、明治神宮、靖國神社等遊を分けて参拜させる由 ▲安部淳 桑名輝雄 日渡悟雄 坂本誠 渡邊徳三郎 蛭田弘 矢澤貞子 鈴木まささ 藁谷かつよ 安島昇 神澤一三 田子英夫 齋藤

採炭夫の感電死

石城郡好問村の北好問日曹小田炭の採炭夫長谷川伊太郎

伊太郎は昨日午前九時頃坑内作業中坑内電線にふれて感電即死した

小名濱市場で

寶魚供養會

佛敎護國團の石城七沼班では小名濱郷軍分會その他の應援で明日小名濱町寶魚市場に寶魚供養會を執行し同供養を終る午後から同町小學校に於て皇紀記念の講演會を開き元第二師團團長長井上一次中將及び東京市芝中學校校長木村柱殿師の講演がある

半島人國防献金

石城郡内郷村の出入炭鑛川平坑半島従業員は勞銀の中から互に出し合ひ金七圓四十錢を國防献金方平署に寄託した

新法實施打合せ
平市及び石城郡下の宗教團體では同團體法の實施による打合せ會を来る十八日午前八時から平市市會議事堂に於て催されるが縣社寺課から係員が出張することになつてゐる

雛まつり

満 莊

思ひも寄らぬ大雪に驚いて雪を見たら恰度陰曆の二月廿八日であつた。上巳の節句も目前にせまつたと云ふに此の大雪とはそらに舊暮末の櫻門外の兎糞を懐ひ居ると不圖四五日後に追つた雛祭の事が胸にうかんだ、いでや例に依て例の如く雛祭見肥でも書いて見ようか、

雛まつり

芭蕉

俳聖芭蕉未だ若かりし時俳諧の正風眼を開かず當時流行の檀林風を學んだ作、雛祭の初日は人形天皇の御宇であつたと酒落た句で雛と人形天皇と云ふ取合せを面白くしたのみで俳句としては第三流以下のものである、
雛とてねびまさりけり
「ねびまさり」とは成長して大人ぶつた形を云ふので今迄仕

産業方面

酸性土壌改良と 焼土法の活性

(3) 眠る成分を醒す
肥料の廢品回収
これにより郡是製糸蠶業所
では反當八〇〇貫の燻燒に
よる活性土壌を施したも
の施さなかつたものに比較
して七割五分、反當一、二
〇〇貫を施與したものは實
に二倍四分のそれ、桑葉
收穫増を示し、なほ麥に對
しては六割八分を増收した
ことが熊本農試の成績で明
らかにあり、佐賀縣農試で
は稻に燻土を施與した場合
平年作の二倍以上といふ驚
異的の増收成績を發表して
ゐる。

かくして一度び土壌に熱處理
を與へると反當與土壌量が八
百貫乃至二千貫の僅少なも
の拘らず驚くべき好結果をも
たらすが、肥料三要素試験を
行つて見ると

無窒素區	一〇四	一〇〇
無磷酸區	一一二	一〇〇
無加里區	一四〇	一〇〇

右の如く明らかに土壌中の睡
眠加里及び磷酸が加熱によつ
て覺醒され有効性となる、こ
れは土壌中の粘土内に存在す
る石灰が加熱處理によつて加
里化合物に作用し置換變化
をして加里を可溶性に變ぜし
め有効化するわけである、
また大抵の耕土は粘土一瓦
當り二百萬乃至四百萬の微
生物が棲息してゐるがこれ
が加熱處理によつて殺滅さ
れ水溶性肥料成分となり熱
處理後日數を経過すれば舊

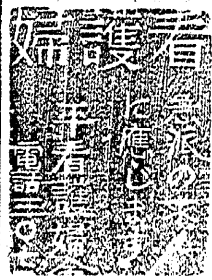
に十倍するほどの微生物が
増殖される。

スペイン GHN 元詰

ゴルフポートワイン

甘味葡萄酒
御婦人の方には少し水を加へて
召し上ると風味一そう佳良です

(平二) 西村屋薬舗 (電三)



附屬産院 新設

妊産婦入院隨意
婦人科
木村病院
平市新川町
電話一六四番

御婚禮着付

貸衣裳、貸か
つら、を御利
用下さい

和洋結髪

何卒御用命の程を

手塚美容院

(徒弟入用)

平市新田町

大小の御宴會にホール

御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります

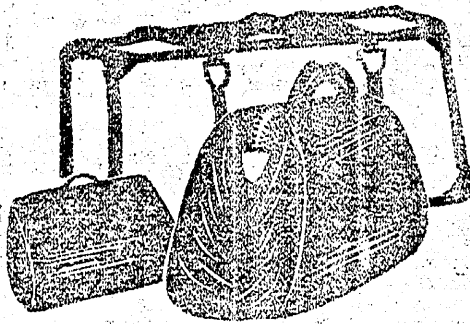
マルトモ食堂

平市四丁目電話二二三番

肋膜炎管支炎關節神經痛肺炎ロイマチス
...痛線中耳炎骨髄炎腰痛等疾に...
生公華
...黒布で各藥...
山野邊藥局

新藥 治淋 號七〇六

カバコン洋品類



(平市新) 眞砂屋 (前驛市平) (話電六) 屋砂眞 (り通道新)

食 事
喫 茶
酒場を兼ねた。

営業時間

開店：午前十時
御食事は午前十
一時より、
閉店：午後十一
時限り、

メストラン サロン

平市銀座街
電話五九二番

電話 買ひます
電話 賣ります

五十嵐

茂
六二六 電話

病室増築、手術室完備
婦人科 醫學博士
五十嵐 茂
平市新川町「電話二六九番」

専門 皮膚科
泌尿器科
性病科
江尻醫院
診察時間 午前八時より
午後九時まで

醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九二番

平病院

院長 醫學博士 鈴木定藏
副院長 高橋俊幸
内科 鈴木定藏
小兒科 鈴木定藏
皮膚泌尿器科 鈴木定藏
物理療法科 鈴木定藏
薬剤科 鈴木定藏
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで
夜間診療に從事す(急患は此の
限りにあらず)



益屋商店

九九・九電

和洋銅鐵、金物問屋